

小山町生物調査

理科部会の生態教材研究会の研修会が、2007年5月23日、千葉市緑区小山町で開かれ、当日は斉藤さんや加藤さんをはじめとする近隣在住の方々に案内をしていただきました。植物と環境の専門の先生方そして動物では、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、昆虫類(甲虫・トンボ・チョウ・水生昆虫)、クモ類に分かれ、それぞれの専門の先生方がいっしょに小山町のアザミ谷(ヤツ)、ゴウシ谷



キセキレイの巣立ち雛(越川)

(ヤツ)で谷津田の様子を案内してもらいながら生物調査を行いました。途中、産業廃棄物最終処分場の計画地だったところへ案内していただきました。地元の方々のご尽力によりこの地が産業廃棄物最終処分場にならず、今の姿を留めたことは次の世代への最高の贈り物になったことを実感いた



イオウイロハシリグモ(越川)

しました。小山町は下大和田と比較すると一番良いのがすぐ近くに人々の営みがあることです。谷津は細かく入り組んでおりますが、そこを地元の方々が生活の場にしており、耕作をやめた場所でも地元の方々が歩きやすいように谷津の奥まで整備してくださっているのが素晴らしいと思いました。また、斜面林も植林されている場所が比較的少なく、昔ながらの姿を留めているようなので、新たな発見がありそうです。その谷津の斜面林ではウツギ、スイカズラ、ガマズミ、ハンショウヅルの花が満開でサシバが低く谷津田上空を飛び、キセキレイの巣立ち雛への親鳥の給餌もみられ、繁殖も確認されました。他にハクセキレイの巣立ち雛、セグロセキレイのペアが見られ、ほぼ同じ場所で3種のセキレイ類が観察されたのも小山町の環境の豊かさを示しています。また、植物の専門家の谷城先生によるとコハナヤスリ(シダ植物)やカノツメソウ(セリ科)などがこの日だけでも見付き、小山町の自然度の高さに驚いていました。これから何回か生物・環境調査を行い詳細をまとめる予定でいます。調査結果が楽しみです。



カノツメソウ(田中)

越川 重治(船橋東高校教諭)



ハンショウヅル(越川)



シオヤトンボ(越川)

(写真協力:田中正彦)



コハナヤスリ(田中)



里山たんけんレポート

第 89 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007年6月3日(日) 晴れ

今回は千葉県生物学会 60 周年記念観察会にあわせて、共同開催となりました。特に、谷津田のクモを中心にした観察会ということで、千葉県生物学会からクモの分類や生態に詳しい浅間茂さんと、歴史や民俗学的な見識の深い川名興(たかし)さんに来ていただきました。さらに野鳥の専門家である唐沢孝一さんと越川重治さん、シダ植物やカヤツリグサに詳しい谷城勝弘さんもお見えになり、大変豪華な観察会になりました。

午前中は谷津田を歩きながら見つけたクモを採集し、それを浅間さんに同定・解説していただきました。さすがここに来るこどもたちの目は鋭く、珍しい種もふくめてたくさんクモを見つけ出し、採集しました。午後は林の中で川名さんにクモ合戦の話をつかぎました。川名さんはこどもの頃夢中になったネコハエトリのクモ合戦のようすを、身振り手振りをまじえて熱く語り、そのクモを彷彿とさせる気迫にみな引き込まれてしまいました。こどもの頃の自然体験が、その後の人生にとっていかに大切なものなのかを、改めて実感しました。

<確認できたクモのリスト(2007年6月3日 記録:高山邦明)>

カタハリウズグモ、クサグモ、コクサグモ、カガリビコモリグモ、ウツキコモリグモ、ハリゲコモリグモ、キクツキコモリグモ、クロココモリグモ、アライトコモリグモ、キバラコモリグモ、スジフトハシリグモ、イオウイロハシリグモ、アズマキシダグモ、ササグモ、ギモシヒメグモ、シロカネイソウロウグモ、ムラクモヒシガタグモ、オオシロカネグモ、キラシロカネグモ、アシナガグモ、ジョロウグモ、ナカムラオニグモ、ドヨウオニグモ、ヤマシロオニグモ、コガネグモ、ナガコガネグモ、ヨツデゴミグモ、ゴミグモ、ハナグモ、ヤミイロカニグモ or オオヤミイロカニグモ、カバキコマチグモ、ネコハエトリ、マジミロハエトリ、オスクロハエトリ、ネオンハエトリ、イナズマハエトリ、アオオビハエトリ

(参加者 大人 21 名、小学生 8 名; 報告:田中正彦)

第 73 回 下大和田 YPP「古代米の田植え」

2007年6月24日(日) くもり

参加者が少なめだったのですが、いつもの強力なメンバーが来てくれたので心強い田植えになりました。まずは緑米を植える古代米田んぼの草取り。今年もコナギがびっしり芽生えはじめていて大変な作業でした。田植えは手慣れたメンバー中心なのでロープを張らずに進めました。小さな頃から参加している子どもたちも加わってにぎやかな田植えで、午前中には余裕で古代米田んぼを終え、マイ田んぼの黒米に取りかかりました。林の中でのお昼が終わる頃にポツポツ雨が降り始め、慌てて残りの田植えに取りかかりました。マイ田んぼは 3 列ある真ん中に赤米、両側に黒米を植えてフィニッシュ。皆さん、お疲れさまでした。



田植えを終えてみんな笑顔いっぱい!

田植えを終えてみんな笑顔いっぱい! 田植えを終えてみんな笑顔いっぱい! 田植えを終えてみんな笑顔いっぱい!

(参加者 大人 12 名 幼児 2 名 小学生 3 名; 報告:高山邦明)

第24回 小山町YPP「古代米の田植え」

2007年6月17日(日) 晴れ

よい天気恵まれ大勢の方が田植えに集まってくれました。子どもだけで 25 人。小さな田んぼに横一列に並ぶといっぱいです。2 年目の今年は古代米だけを植えることにして、一番広い区画の半分をもちつきに使う緑米、残りを黒米にしました。田植えがはじめての子どもが多く素足の泥の感触に慣れないうちは怖々の田植えでしたが、すぐに元気いっぱいにぎやかな田植えになり、あっという間に植え終わりました。残りの時間はカエルやザリガニなど生きもの遊びに興じていました。日差しが強くてカラッとして気持ちのよい天気谷津にホトトギスが鳴き声と子どもたちの歓声が響き渡っていました。



子どもたちが横 1 列に並んでの田植え

(参加者 大人 16 名、小学生 25 人; 報告:高山邦明)

谷津田・季節のたより

下大和田

6月16日(土) サシバやホトギスが鳴き渡りアシ原にオオヨシキリの声。斜面林の縁にホタルブクロが咲く(高山)

6月18日(月) ヘイケボタルが舞う, ウシガエルの鳴き声を聞く(田中)

小山町

6月10日(日) ホトギスのさえずり(加藤)

6月14日(木) ピオトープ田んぼから竹やぶにカワセミが飛び去った(齊藤)

6月15日(金)・18日(月) ヘイケボタルが舞う(齊藤)

6月16日(土) 羽化したてのノシメトンボ飛ぶ。ウスバキトンボやコシアキトンボの姿も(高山)

6月20日(水) 水路に落ちたオニヤンマを救出。同じ水路の壁にアカガエルが2匹・アマガエルが1匹しがみついていたので救出。ピオトープ田んぼの上をコシアキトンボ()とギンヤンマが飛んでいた(齊藤)

6月21日(木)・27日 畑でキジを目撃(齊藤)

6月22日(金) ハグロトンボ飛ぶ。多数のアマガエルが斜面林へ移動。ツククサが咲く(高山)

6月30日(土) 斜面林からニイニイゼミの声。田んぼにオオシオカラトンボ(高山)。

(先月の季節のたよりで写真を掲載した花は「ハンゲショウ」でなく「ハンショウヅル」でした。おわびして訂正させていただきます)

谷津田いきもの図鑑 No.7 「サシバ」

下大和田では、3月～4月になると夏鳥としてその姿を現します。渡ってきたばかりの時は「ピッキー」や「ピッピー」と良く鳴くので、その訪れを知ることができます。サシバはヘビ、カエル、ネズミ、モグラ、小鳥類、バツタなどを食べ、谷津田の食物連鎖の最上位に位置する生物です。つまり、サシバがいるということは、その谷津田の生物相の豊かさを示していることとなります。

最近の研究によると谷津田であればどこにでも同じようにというわけではなく、樹林 水田の接線長が長ければ長いほど、サシバは多いことがわかりました。また、水田面積が広いだけの圃場整備の進んだ大規模水田には、サシバが少ないことがわかっています。サシバの繁殖に必要なのは、水田と斜面林がセットになっている生態系です。その環境は、アカガエルやバツタをはじめ

谷津田の生物がたくさんいるところなのです。また、休耕田が増え水田が減るとサシバも減ってしまいます。

全国的にサシバは減ってきており、環境省のレッドリストでは、絶滅危惧 類にはいり、千葉県レッドリストでは重要保護生物に入られています。下大和田で次の世代にもサシバの生活を見せたいものです。休耕田が増えつつあるので、市民の力で水田を守っていくことはサシバにとってもとても大切なことなのです。

(越川重治)



枝に止まったサシバ(佐倉にて、田中正彦)

全国一斉河川水質調査に参加して

齊藤 薫

6月3日(日)午前市民グループが国土交通省・(財)河川環境管理財団と連携して、『身近な水環境の全国一斉調査』を行なう。という企画を知り、小山町でYPPの仲間の4人が参加しました。タイトル通り身近な川の村田川水系となる大椎橋下、板倉と小山町の境の水流の2箇所を申請し、COD*を測定しました。はじめに気温と水温を計り、採取した水を試薬につける時間を計算します。

調査結果(申請分):小山町...4と6の間、大椎橋下...2と4の間

試薬が残ったので、YPPの活動拠点近くも行ってみました。

観音地下水路...6(アザミ谷からの水路)、小山町地下水...0、セリ田の湧水...0

と言うことで、湧水と井戸水は有機物質量がほとんど無いことがわかりました。

昨年は全国で8400人参加されたそうです。今年の調査結果については(<http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省河川局のHPで公表されます。来年も調査を継続していこうと考えております。皆さんも一緒に参加しませんか。(参加者 加藤・武田・須藤・齊藤)

(*COD:化学的酸素要求量。水に試薬を加えて酸化される有機物の量を調べる。数値が小さいほど、有機物が少なく、水がきれい)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第 74 回 下大和田 YPP「田んぼの生きものとあそぼう！」

ザリガニ、カエル、トンボ・・・夏の谷津田には生きものがいっぱいです。ザリガニ釣り、トンボ採り、クモ合戦など生きものといっしょに遊びましょう。

日 時: 2007 年 7 月 21 日(土) 10:00~14:00 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集 合: 中野操車場バス停に 10:00(JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物: 長靴、帽子、軍手、弁当、飲み物(暑いのでたっぷり)、敷物など。

参加費: 300 円(資料代など)

主 催: ちば環境情報センター 共 催: ちば・谷津田フォーラム

第 25 回 小山町 YPP「自然観察会」

真夏を迎える田んぼでオニヤンマやカブトムシなど夏の生きものを観察します。

日 時: 2007 年 7 月 15 日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴、軍手、飲み物(暑いのでたっぷり)、筆記用具など

参加費: 100 円(資料代など)

第 91 回 下大和田 8 月の谷津田観察会とごみ拾い

真夏の谷津を散策して、暑さに負けず暮らしている生きものの姿を探しましょう。

日 時: 2007 年 8 月 5 日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集 合: 中野操車場バス停に 10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、飲み物(暑いのでたっぷり)、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋など

参加費: 300 円(資料代など)

主 催: ちば・谷津田フォーラム 共 催: ちば環境情報センター

小山町の谷津田にたくさんの小学生がやって来ました！

6 月 22 日(金)、昨年に続いて小山の谷津に隣接する住宅地にあるあすみが丘小学校の 5 年生約 100 人が田んぼの見学に訪れ、YPP の仲間でお手伝いをしました。地元の農家の方に米づくりについてお話を伺ったり、田んぼの生きものを観察したり、田植え体験をしたり、楽しい時間だった様子です。また、同じあすみが丘の大椎小学校から小山で学校田んぼをしたいという申し出があり、地元の方から休耕田をお借りできることになりました。6 月 16 日(土)にボランティアのお母さんと先生方が集まって田起こしをして休耕田を田んぼに戻しました。小山の方のご厚意により固くなった土を代かきしていただき、6 月 25 日(月)に 5 年生 150 人が訪れて田植えをしました。素足を泥に入れてのにぎやかな田植えを楽しむことができたようです。

両方の谷津田見学会の様子は追って「谷津田だより号外」で詳しくお伝えします。

(高山邦明)

編集後記 今年も下大和田と小山の田植えが無事終わりました。梅雨を迎えた田んぼからはたくさんのアカトンボが羽化し始めています。小山では小学校の谷津田見学会が行われ、たくさんの子どもたちの歓声が谷津に響き渡っていました。この中から一人でも多くの谷津田ファンが現れてくれるといいですね(高山邦明)